

矢作川流域圏懇談会通信

R5 海部会編 vol. 2



発行日：令和6年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第53回海部会WGを開催しました！

第53回海部会では、矢作ダム堆砂土砂の分級工法について、11月の現地実証実験見学会、徳島県那賀川における土砂還元事業から矢作川における土砂の活用等を話し合いました。また、「流域圏担い手づくり事例集（海版）」（仮題）の体制等について話し合いました。

日時：令和5年12月12日（火） 10:00～12:10

場所：西尾市 中央ふれあいセンター 視聴覚室

参加人数：20名（内オンライン参加4名） ＊事務局を含む



◆主な会議内容

1 意見交換・話題提供



(1) 矢作ダム堆砂土砂の分級工法について

- ① 11月に実施された「ダム堆砂分級技術の現地実証実験」の状況について、青木座長より報告がありました。現地実証実験では、ダム堆砂分級の作業工程、分級された砂の状況等の説明があり、現地実証実験の様子を動画で説明していただきました。今後の課題としては、分級技術の活用、分級した砂の事業での活用等があり、それらについてWGで話し合いました。
- ② 徳島県那賀川・長安ロダムで実施されている土砂還元事業について、青木座長より話題提供がありました。那賀川の長安ロダム・安井ダムでは、ダム上流側で堆積した土砂を採取し、ダムの下流に置土することによる土砂還元が実施されています。WGでは、那賀川の事例をもとに、矢作川での土砂問題について話し合いました。

(2) 流域圏担い手づくり（海版）について

- ・近藤朗氏より、山部会で作成している「流域圏担い手づくり事例集」について、次は海をテーマとしてまとめていきたいとの提案があり、海部会と山部会の連携・協働体制、取材先、編集方法等について話し合いました。

2 情報共有

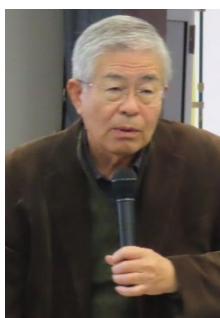


(1) 年間スケジュールについて

事務局より、令和5・6年のスケジュールについて説明がありました。

(2) 第2回中部いい川ワークショップ in 矢作川流域について

近藤朗氏より、1月20日の「第2回 中部のいい川ワークショップ」、2月12日の公開講座「川はつなぐ私たちの未来～知らなかった山・川・里・海のつながり～」の内容について説明がありました。これらのイベントを通じて、「流域」をテーマに、山・川・海のつながりや連携、流域の未来について情報発信していく予定です。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●矢作ダム堆砂土砂の分級工法について

- ・土砂分級の技術をどのように活かすか、技術をどうやって使っていけるかというのが課題となっている。(青木)
- ・矢作ダムでの土砂の分級は試験的にやっている。矢作ダムの土砂を分級する事業をやっているわけではない。分級した土砂を使ってできることがわかってくれば、事業化に進む可能性もある。(青木)
- ・1日でどれくらいの土砂が処理できるのか？(高橋)
 - ▶ 連続的に処理し、1日機械を回し続けたら矢作ダムの土砂をかなり処理できるという話しであった。(青木)
- ・分級の機械の損耗を考えると、維持管理の経費がかなりかかるのではと思う。(井上)
- ・よい試みと思う。この技術は、どこかで実用化をめざしているのか？ また、これは矢作川だけなのか？(鈴木)
 - ▶ 千葉県で技術開発し、そこで矢作川の砂を使ってやっている。どこかで実用化するというのはまだ具体化されていない。この技術の使い方について、いろんなところに働きかけている段階。(青木)
 - ▶ 良質な砂が欲しいというのは、どこの海でも同じ。干潟・浅場造成などが事業として進みつつある。(鈴木)
 - ▶ ダムに良質な砂がある。さらに良質な砂に置き換える技術があるということは非常に重要と思う。(鈴木)
 - ▶ 水を浄化するのに炭素ろ過に使う砂が国内では手に入らない。ろ過する砂に使えるのではないかなと思う。(井上)
- ・問題は、それをどうやって海までもってくるかという点。これはどこかで道筋をつけて、本来流れ出るべき海のほうに何とか持ってくるというのを真剣に考えないといけないと思う。そのためには行政の力が必要となる。(鈴木)
 - ▶ 海から矢作ダムまで標高差300mくらいある。車で砂を海まで運ぶ場合の位置エネルギーを電気に変換するなど。矢作川流域には、矢作川の水を必要としている企業があるので、そのような技術を提供してもらうなど。(高橋)
- ・海の貧栄養の問題がある。これを解決するには、空間(干潟・浅場等)を戻していくことと栄養塩管理をセットでやる必要がある。流域での循環が壊れた今、それをどうやって修復するかを検討する必要がある。(近藤)

●徳島県那賀川・長安口ダムの土砂還元事業について

- ・大規模にやっているの、今のところ河川環境は回復している。今後もやり続けるとしたら、土砂をもっと下流に持っていかなければいけないかなと思う。(青木)
- ・那賀川はダムが2つなのでよいのだが、矢作川はダムが多いので、なかなか難しいかもしれない。(青木)
- ・矢作川では、今から30年くらい前に河床のアーマー化現象が発生した。土砂も大事だが、危惧しないといけないのは洪水のこと。ダムがたくさんあることによって土砂を下流に流す洪水が起きにくくなっている。(近藤)
- ・川の流れが均一化すると、土砂はあっても淵を埋めてしまい、河床環境が単調化する。いろんな面から見ていかないとけない。矢作川のようにダムが多い河川はどうしていくか。(近藤)
- ・長安口ダムは、水位を下げて流水を増やす機能があるとのこと。治水面から考えて、水量を増やすことを考慮した設備を持っていることに驚いた。(石田)
 - ▶ ダムが洪水を抑えるという役割だけでみていくと、洪水はある程度必要という視点が欠けてしまう。ダムを造ってしまったのでその責任が問われる。(近藤)
- ・川全体の一部をダムで止めても、どれくらい洪水に対して効果があるのか疑問に思っている。(太田)
 - ▶ 発電ダムが多いので難しい。わずかな落差のダムなら機能していないのではないかなとも思う。(青木)

●流域圏担い手づくり事例集(海版)について

- ・広く市民に伝え、広めるにあたっては、事例集は有効と感じている。今回は海をテーマに、発信ツールとして使えるようにしていきたい。海の問題は、他部会や一般市民の方にも伝えるべきと考えている。(近藤)
- ・海編の編集長は青木先生にお願いしたい。鈴木先生には三河湾のいろんな問題について執筆をお願いしたい。(近藤)
 - ▶ 来年3月9日に、名古屋で伊勢湾・三河湾の漁業者を対象とした意見交換会を実施する。海で生活している漁業者が海の現状について話し合う。この意見交換会の資料は事例集にそのまま活用できると思う。(鈴木)
- ・愛知県水産試験場、愛知県水産課、愛知県流域下水道、三重県水産試験場、鳥羽市水産研究所、鳥羽市海の博物館などに取材に行く予定。海部会から取材への参加をお願いする。(近藤)
- ・今年の三河湾にはノリ粗朶がない。後継者の問題もあり、ノリ養殖が復活するのにかどうか心配になる。(高橋)
 - ▶ 後継者の問題は大きい。ノリだけでは生計が立てられない。多様な漁業を営んでいたのが伊勢湾・三河湾の漁業なのだが、今はすべてが不漁という状況。後継者を入れるような経済力もなくなっている。(鈴木)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。

